

古賀恒星圖の折り方

京都 宇野良雄

天の河が南に流れ、星が銀砂を散らした様に輝く夜が続いて、年中で一番星に親しみやすい時となりました。星を知つて、小山の上に、川原に、星圖を開いて星を見る時、未知の國へぐんぐん引きこまれる様な氣がして、星を知る喜びをつくづく感じます。

手頃なものとして古賀恒星圖を持っていますが、星圖をポケットにして外出する時のために、星圖の折り方を考へました、ほんの一寸した思ひつきとして御紹介致します。

A. 折り方

Fig. I 點線 ABC (從線) DEF (横線) に折り目を入れる。

Fig. II 圖面が内になる様 DEF の折目に従ひ W 形に折り四つにたゝむ、

Fig. III 四つにたゝんだものを B の折目に従つて内側に折る。

Fig. IV さらに AC の折目によつて兩外側に折りかへしてたゝむ。

B. 見る時

先づ横に伸ばし (Fig. II の格構にする。)

北極南極 (上半分) を見る時は、………D の折目を開ける。

赤道南北 60 度迄 (下半分) を見る時は、…F の折目を開ける。

さらに一部分を見る時は、

DF の折目を伸ばし、B で半分に折り、さらに Fig. IV の要領により AC の折目を折りたいむ。

C. 特 點

此の折り方によれば次の様な利益を得る事が出来ると思ひます。

1. 簡単に折り開けが出来る事。(全面を開かずに見る事が出来る)
2. たゞめは菊判 (天界の大きさ) になり、觀測帖のページにでも、ポケットへでも入れられる。
3. 北極南極 (上半分)、赤道南北 60 度迄 (下半分) の赤道と、赤道南北 60 度迄 (下半分) の恒星時 6 時と、12 時と、18 時に折目が入り、たゞんで一部分を見る時にも見やすい事。(無駄な折目が入らない)

Fig I

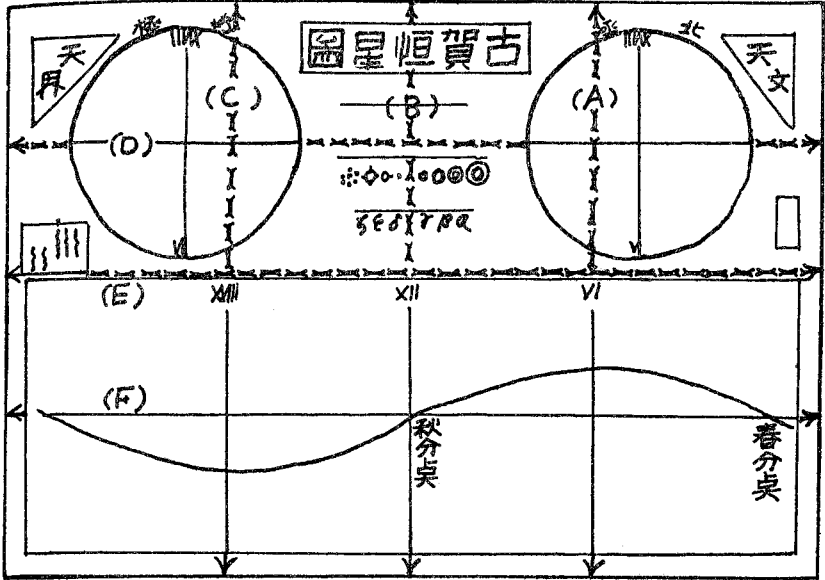


Fig II

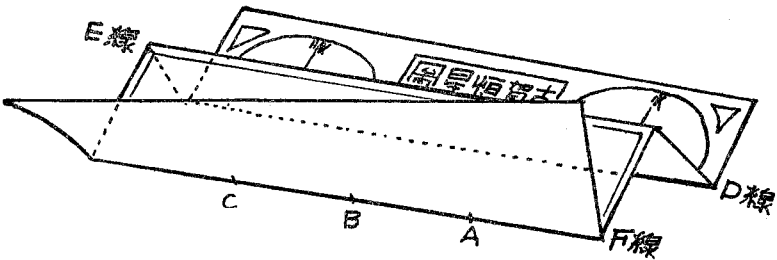


Fig III

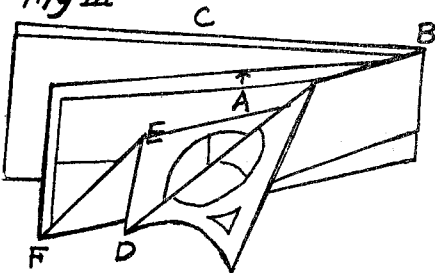


Fig IV

